

CentreCOM® AT-TSシリーズハブ リリースノート

AT-TSシリーズハブをご購入いただき、誠にありがとうございます。この文書は、ファームウェア(Omegaソフトウェア)のバージョンアップにともない、追加変更された内容や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。 最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

記述内容

Trapメッセージ送信の制限	1
Authentication Trap機能の追加	1
設定の初期化機能の追加	2
コンソールとTelnetのイネーブル・ディセーブル機能の追加	3
「 タイムアウト 」のデフォルト値が 5 "に変更	4
冗長構成機能の追加	5
ポート学習機能切替え機能の追加	2
ポートに登録できるMACアドレス数限定機能の追加1	4
ソースアドレステーブルの表示方法指定機能の追加1	6

Trap メッセージ送信の制限

頻繁に Trap が発生(例えば、セキュリティ機能による未登録 MAC アドレスを検知した場合の Trap 等)する状況では、発生した Trap の一部が送信されないことがあります。

Authentication Trap機能の追加

SNMP エージェント機能において、Authentication Trap 機能が追加されました。 snmpEnableAuthenTraps オブジェクトが Enable のとき、SNMP マネージャのコ ミュニティ名とAT-TSシリーズハブのコミュニティ名が一致しない場合にTrapメッ セージが送信されます。

設定の初期化機能の追加

「AT-TS Series オペレーションマニュアル」の「4.0 A: 管理情報(Administration)」をご参照ください。

「A: 管理情報(Administration)」メニューに下記機能が追加されています。

R: 設定を工場出荷値に戻します

すべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト値にもどします。

	And a second sec	A 1018
JAINE I	and and and mad with	
775	ョンを選択して下さい:	
H 0	Hubキーム Omega オブション	
N T	ネットワークバラメータ ターミナル設定	
L.	書題/language/langua/idioma/linguaggio/sprache	
	他Hubへのアップデート90FTMAREの転送 すべてのHubへのアップデートSOFTMAREの転送 設定を工場出荷値に戻します	- 1
A	アクティブチニタ	

注意 - このメニューを実行すると、IPアドレスなどもNullに初期化されますので、 ご注意ください。

- メニューを実行後、画面表示が英語になります。日本語画面表示にもどす手 順は次の「設定の初期化手順」をご覧ください。

設定の初期化手順:

「A: 管理情報(Administration)」メニューから"R"を入力し、リターンキー で確定します。次に実行を確認する画面で"Y"を入力、リターンキーで確定 します。

メインメニューに戻り"Q"を入力後リターンキーで確定し、Omegaソフトウェ アを終了します。さらにリターンキーを押すとメインメニューが英語で表示され ます。

メニュー表示を日本語にもどします。"A "を入力しリーターンキーで確定し、 「Administration」メニューを表示します。"L"を入力後リターンで確定し、言 語オプション選択メニューを表示します。"J"を入力し日本語を選択、リター ンキーで確定します。リターンキーを2回入力してメインメニューに戻ります。

コンソールとTelnetのイネーブル・ディセーブル機能の追加

-TAT-TS Series オペレーションマニュアル」の「4.2 P: パスワード / タイムアウト」をご参照ください。

「A: 管理情報 Administration)」メニューの「P: パスワード / タイムアウト」が 「O: Omega **オプション**」に変更になりました。

「O: Omegaオプション」メニューは 、 の新機能を含む4つのサブメニューから 構成されています。リータンキーを押すと次の順にサブメニューが表示されます。

> パスワード設定 タイムアウト値設定 コンソール接続の制限設定 Telnet 接続の制限設定

、 については「AT-TS Series オペレーションマニュアル」の「4.2 P: パスワード / タイムアウト」をご参照ください。

コンソール接続の制限設定

コンソールポート(RS-232)経由の接続をEnabled(イネーブル)または Disabled(ディセーブル)にします。キャラクタキーを入力後、リターンキーを 押すと設定が切り替わります。

Enabled(イネーブル) Disabled(ディセーブル)間でトグルになっています。

Telnet 接続の制限設定

ネットワーク(Telnet)経由の接続をEnabled(イネーブル)またはDisabled (ディセーブル)にします。キャラクタキーを入力後、リターンキーを押すと設 定が切り替わります。

Enabled(イネーブル) Disabled(ディセーブル)間でトグルになっています。

注意 両方を「Disabled」にすると、再ログインできなくなりますのでご注意ください。

「タイムアウト」のデフォルト値が 5 "に変更

AT-TS Series オペレーションマニュアル」の「4.2 P: パスワード / タイムアウト」をご参照ください。

「A: 管理情報(Administration)」-「O: Omega オプション」メニューの 「タイムアウト」のデフォルト値が"5"に変更になりました。

πT2 + Λ(π ¹ −1−1)‡	_ C X
HAD BEE STAL DED AND	2000000
induced modellied resolution and	1.
現在のタイムアウト値 5	
タイムアウト値を入力して下さい(リターンで現在の値が有効になります)	
タイムアウト値は分単位で入力、兼効にする場合。0 を入力して下さい:	
-> _	-
AN COLOR SHOTES MADE IN THE PARTY NAME (S	7% 15-8718.31T

「AT-TS Series オペレーションマニュアル」の「7.1 ポートの設定メニュー」の補足です。

「ポートステータス」メニューからポート番号を入力したポートの設定メニューに、 「V: **冗長構成の設定」**が追加されました。

						ľ
リンクステ・ パーティン・ 毎世(90) 申4: 学習	・タス ・システータス	an Dniine I: Partitioned Normai Disabled				
オブション1 シE:Enab D:Disk S:Stan S:Stan ンL:Link 0:000 P:N 植物	E増損して下さ Im - ボート・ dard IEEE reconnection test on - no line, tes 接正を行うな	い ネーブル ティセーブル Servection アル setion アルゴリ it	37.×*			
	トネーム空更ン → 統計の 構業で 副標準で 副標準で の 一 は の の 一 い の の の の の の の の の の の の の	タのリセット 供替え				

クリティカルなネットワークポート(プライマリポート)に、対となるセカンダリポートを設定します。プライマリポートに何らかの障害が発生している間、プライマリ ポートに代わってセカンダリポートを作動させることにより、より信頼性の高いネットワーク構築が可能になります。

プライマリポートとセカンダリポートを1組として、12ポートハブでは6組、24ポートハブでは 12 組設定することが可能です。

トポロジー A:



トポロジー B:



トポロジーBは部門サーバのLANアダプターの設定 / 仕様によっては構成できない場合があります。

プライマリポートがイネーブル、セカンダリポートがディセーブルの状態から、次の 2つの状況下においてポート切り替えが作動します。

[正しくリンクが形成されていない]

通常 プライマリポート(Enable) セカンダリポート(Disable)

プライマリポートに対するリンクテストで リンクが正しく形成されていないとき

ポート切り替え プライマリポート(Disable) セカンダリポート(Enable)

プライマリポートに対するリンクテストで リンクが正しく形成されたとき

復帰 プライマリポート(Enable) セカンダリポート(Disable)

プライマリポートに対するリンクテストの頻度、プライマリポートとセカンダリポートの切り替えのタイミングはすべてOmegaソフトウェアによって制御されています。

メモ リンクテスト機能は10BASE-T ポートに限り作動するので、AUIおよび 10BASE2ポートにおいて、リンクのダウンが原因でポート切り替え機能が作 動することはありません。

[自動切り離し・データが受信されない]

通常 プライマリポート(Enable) セカンダリポート(Disable)

- マルチプルコリジョン等の発生によるプライマリポートの自動切り離し
- [通信異常の検出時間]によって特定された時間の間データが受信されないとき

ポート切り替え プライマリポート(Disable) セカンダリポート(Enable)

[プライマリポート復帰確認間隔]によって特定された間隔で、[通信異常の再検出時間]によって特定された時間、プライマリポートのテストを行います。

例) 下記設定値の場合プライマリポートのチェックは、『60 秒毎』に
『200 ミリ秒間』行われます。
プライマリポート復帰確認間隔(秒):60

通信異常の再検出時間(ミリ秒):200

自動切り離しの解除、またはデータの受信が確認されたとき

復帰 プライマリポート(Enable) セカンダリポート(Disable)

注意 対となるプライマリポートとセカンダリポートは、同じハブ上のポート でなくてはなりません。片方のポートが他のハブにカスケード接続され たような構成は冗長構成機能サポート外ですのでご注意ください。

> 両ポートがトポロジーA(6ページ参照)のようにバックボーン接続されて いる場合は、両ポートの「ポート学習機能」をディセーブルに設定してく ださい。「ポート学習機能の切替え」については、本リリースノート12 ページをご参照ください。

ハブ上のポートでプライマリポート、セカンダリポートを決めます。 ┃ ここでは、ポート1をプライマリポート、

ポート2をセカンダリポートに設定する手順を示します。

「ポートステータス」メニューからポート1を選択します。

"∨"を入力して「冗長構成の設定」メニューを選択すると以下の画面が表示されます。

		_
	*-+ 1	
	冗長構成の設定	
セカンダリバブライマリ) ボート	Wull(現在まで設定されてません)	
≜信興営の検出時間(16)> ブライマリポート度得確認関ቘ(14) ≜信興営の再後出時間(ミリ村)	00 60 200	
オブションを選択して下さい		
A: セカンダリボートの設定		
モジュールの設定 8 通信再営の検出時間(NB) 0 ブライマリボート復帰運続間 D 通信責営の再検出時間(ミリ利	掲(内) (0	

"A"を入力して、「セカンダリポートの設定」を選択します。

HILD BEED AND BED WING	
<i>#−</i> + 1	
セカンダリボート: Null (現在まで設定されてません)	
ボート番号を入力して下さい (リターンで現在の設定が有効になります)	
数値を入力、兼効にする場合、0 を入力して下さい	

画面にしたがっで 2 を入力後、リターンで確定し、ポート2をセカンダリポートとして設定します。さらにリターンを押すとポート1のポートステータスが表示され、冗長構成機能の設定を確認することができます。

7+1400 I	0.85	\$.75QD	SHIP.	1680 W/B	
リンク	7.7-	22:	<	$\# - \vdash 1 - \Pr$ mary port $\rightarrow 2$	-

[通信異常の検出時間]の設定

プライマリポートにデータが受信されない状態が何秒間続いたら、セカンダリ ポートに切り替えるかを設定します。

デフォルトは60秒です。

データの受信をチェックしない場合は "0"(ゼロ)を入力してください。

プライマリポートの「冗長構成の設定」画面から

"B"を入力後、リターンで確定します。

画面にしたがって0~65,535(秒)の範囲で値を入力します。

[プライマリポート復帰確認間隔]の設定

プライマリポートからセカンダリポートに切り替わった後、何秒後にプライマ リポートをイネーブルにし、通信状況をチェックするかを設定します。 デフォルトは60秒です。

プライマリポートの「冗長構成の設定」画面から

"C"を入力後、リターンで確定します。

0~65,535(秒)の値を入力します。

注意 [プライマリポート復帰確認間隔]の値が"0"(ゼロ)の場合、一度セカンダリポートに切り替わるとプライマリポートのチェックは行われず、セカンダリポートがイネーブルにされたままになります。この場合、プライマリポートへの切り替えは「P: ポートステータス」メニューから手動で行ってください。

[通信異常の再検出時間]の設定

セカンダリポートがイネーブルに切り替わったのち、プライマリポートの通信 状態をテストする時間を 1000 分の 1 秒単位で設定します。

ここで特定された時間、プライマリポートはイネーブルになり、セカンダリ ポートで受信されたパケットは送信されません。 デフォルトは200 ミリ秒です。

"D"を入力後、リターンで確定します。

画面にしたがって100~65,535(ミリ秒)の範囲で値を入力します。

[通信異常の再検出時間]内にプライマリポートでのデータの受信、または自動切り離しの解除が検出されなかった場合、プライマリポートは復帰せず、再びセカンダリポートがイネーブルになります。

ポート学習機能切替え機能の追加

「AT-TS Series オペレーションマニュアル」の「7.1 ポートの設定メニュー」の補足です。

「P: ポートステータス」メニューからポート番号を入力したポートの設定メニューに、「T: **ポート学習機能の切替え」**が追加されました。

ポートごとの MAC アドレス学習機能を Enabled(イネーブル)または Disabled(ディ セーブル)に設定します。 Enabled(イネーブル) Disabled(ディセーブル)間でトグルになっています。

MAC 学習: Enabled

ポートが新しいソースアドレスからパケットを受信するたびに、ソースアドレステー ブルがアップデートされます。

注意「セキュリティ」メニューの「E: セキュリティ機能-ソースアドレスtable固定; 未登録 MAC アドレスプロテクト」が有効な場合は、「T: ポート学習機能の切 替え」のEnabled(イネーブル)・Disabled(ディセーブル)に関わらず、ソース アドレステーブルはロックされアップデートされません。

MAC 学習: Disabled

ソースアドレステーブルはロックされた状態になり、ソースアドレステーブルはアッ プデートされません。

 「セキュリティ」メニューの「F: 学習機能 - ソースアドレス学習; 未登録 MAC アドレス登録」が有効な場合も、ポートごとにポート学習機能を Disabled (ディセーブル)にすることができます。 ポートの設定メニュー画面の「MAC **学習」**の項目で現在のポートステータスを 確認します。



"T"を入力して、リターンで確定します。 ステータスが切り替わったことを確認します。 で Disabled の場合、 は Enabled に、 で Enabled の場合、 は Disabled になります。



ポートに登録できる MAC アドレス数限定機能の追加

「AT-TS Series オペレーションマニュアル」の「8.2 セキュリティ機能の設定方法」をご参照ください。

「S: セキュリティ」メニューの「ソースアドレス学習モード」に下記機能が追加されました。

G: ポートごとに登録できる MAC アドレスを1つに設定

H: 受信した MAC アドレスをすべて登録

オブション	を選択して下る	511			
A: ソー B: ソー C: MAC D: MAC	スアドレステ スアドレステ アドレスをテ アドレスをテ	- ブル表示 - ブル全消去 - ブルに追加 - ブルから削除			
2-27F	レス学習モー	F:			
EF 学者	ョリティ機能 機能-ソース たことに登録 した MAO ア	ーソースアドレ アドレス学習:3 できる MAG アー ドレスをすべてき	スtable国史: R登録 MAG ア ドレスを1つに 登録	*登録MAGアド ドレス登録 設定	レスプロテクト

次の、で選択したオプションの組み合わせにより4種類の設定が可能です。

セキュリティの有効 / 無効を設定するオプション

E: **セキュリティ機能-ソースアドレス** table **固定;未登録** MAC **アドレスプロテクト** ソースアドレステーブルはロックされた状態になり、未登録 MAC アドレスから のフレーム検出時には、「MAC アドレスセキュリティ」で選択されたオプション を実行します。

F: 学習機能 - ソースアドレス学習;未登録 MAC アドレス登録

ポートが新しいソースアドレスからパケットを受信するたびに、ソースアドレス テーブルがアップデートされます。

ソースアドレステーブル上に登録可能なエントリの数を制限するオプション

G: **ポートごとに登録できる** MAC **アドレスを**1**つに設定** 受信ソースアドレスのテーブル上にエントリされる MAC アドレスの数を1ポー トにつき1つに制限します。

H: 受信した MAC アドレスをすべて登録

受信ソースアドレスのテーブル上にエントリされる MAC アドレスの数を1ポー トにつき1つに制限しません。

注意 上記"オプションEとG"が有効で、かつ冗長構成機能をご使用の場合は、冗 長機能対応ポートのMACアドレスの登録はご利用になっている環境にあわせ て行ってください。

ソースアドレステーブルの表示方法指定機能の追加

「S: セキュリティ」-「A: ソースアドレステーブル表示」メニューに下記機能が 追加されています。

- A: 登録されているすべての MAC アドレスを表示する 登録されているすべての MAC アドレスとそのポート番号を表示します。
- B: 指定ポートに登録されている MAC アドレスを表示する 登録されているMACアドレスのうち、指定したポート番号でパケットを受信 したMACアドレスを表示します。
- C: 指定 MAC アドレスから、登録されているポートを表示する

登録されているMACアドレスのうち、指定したMACアドレスでパケットを 受信したポート番号を表示します。

77640 - 1191	1976 1975年1月1日 通信	U 1680 478	p			
++0.00	た湯炉レフエ	715				-
A: 98	まされているす	TATO NRC 71	ドレスを表示	する		- 1
B: #13	〒ポートに登む	อ่อการเหลือ MAD	アドレスを	表示する		- 11
0: Bit	〒 NRC フドレ	スから、金録され	っているボー	トを表示する		- 11
(明日の)	メニューに戻り	「たい場合は、り	ターンキー1	Eけを入力して	₹ðい,)	
->_						
10.420 Mill	VTIO	9800-0-14-1	SERL	CAPE NUM	40.00 20	5(I)-